

看

六年 画数 三 筆順 看
カン



「手」という字と、「目」という字とを組み合わせて作った字です。

「目」の上に、手をかざした「形」を表した字です。これは、「よく見ようと思っている」心の現れですから、単に「見る」ということではなくて、「気をつけて見る」こと、「注意して「見まもる」という意味の字です。

使い方

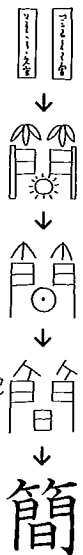
▽おかあさんが、めずらしく風邪をひいて、寝てしまいました。わたしは、いっしょうけんめい看護しました。そのせいか、熱もさがり、ほっとしました。
▽商店街には色々な看板が出ています。その一つ一つをながめると、おやつと思うようなものもあって、おもしろいものです。看板は、人目を引くためのものから、工夫がこらされているのです。

熟語例

▽看護（病人や、けが人の手当てや世話をすること。「看護婦さんは、毎日、大変な労働をしています」などというふうに、つかいます。）
▽看破（見破ること。「あの人は、大そうな眼力があって、人の嘘などは、すぐ看破してしまう」などというふうに、つかいます。）
▽看過（見過ごすこと。見のがすこと。「一度くらい失敗なら、看過しよう」などというふうに、つかいます。）
▽看守（刑務所で、囚人を見守り、取り締まる役人）
▽看板（商店などで、広告のために商品や屋号などを書いて、人目につくようにかかげた板）

簡

六年 画数 18 筆順 簡
カン



「竹」の意味を表した「竹」と、「間」という字とを組み合わせて作った字です。

紙の無かった昔は、長さを一定に切りそろえた竹ふだを一定の間隔をおいて並べ、これを革ひもでとじて、巻物にしました。

簡は、「竹ふだで作った「文書」を表した字です。今では、「手紙」の意味に使われています。【例】書簡。

また、簡は「ふだとふだとの間が「空いている（省かれています）」ので、「省略する」「おおまか」という意味に使われます。【例】簡単、簡略、簡易、簡便、簡明、簡素。

使い方

▽古墳（昔のお墓）が、いつの時代のものかは、木簡があったことで知ることができました。
▽わたしは「書簡の書き方」という本を買って、手紙の書き方を勉強しています。
▽日曜日は、朝飯を簡単にすませて、お昼にごちそうを食べることにしています。

熟語例

▽木簡（文字が書かれている木の「札」のこと。昔は木の札を「札」、竹の札を「簡」と言いましたが、木の札のことも「木簡」と言うようになり、竹の札は、「竹簡」と言うようになりました。）
▽書簡（「文書」という意味のことですが、今では「手紙」のことを言います。）
▽簡単（「単」は「複」の反対語。複雑でなく、「手軽」なこと。また、「やさしい」という意味にも使われます。）
▽簡略（簡単で、省略されていること。）
▽簡易（簡単で、容易「やさしい」なこと。）
▽簡便（簡単で、便利なこと。）
▽簡明（簡単で、明瞭「明らか」なこと。）